

国語科 第1学年

1 教科のねらい

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のように育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。
- (2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにすることができるようにする。
- (3) 言葉がもつ価値に気付くとともに、進んで読書をし、我が国の言語文化を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

2 学習の仕方

(1) 授業では

- ① 休み時間のうちに授業道具を机の上に準備し、チャイム着席を守る。
- ② 授業中は注意深く指示を聞き、他の生徒と協力して学習課題に積極的に取り組む。
- ③ 他の人の意見をよく聞き、自分でも考えて意見を積極的に発表する。
- ④ 板書を分かりやすくノート・ワークシートに記入し、自分の考えも書き入れるなど工夫する。

(2) 家庭などでは

- ① 予習として教科書を音読し、読めなかった漢字の読み方を調べておく。
- ② 新出漢字を練習し、分からなかった言葉の意味を調べておく。
- ③ 単元終了時には復習を行い、学習した内容の定着を図る。

(3) 定期テスト前には

- ① 教科書を、もう一度音読する。
- ② ワークシートを見直して学習したことを振り返る。
- ③ 範囲の漢字の読み書きができるようにしておく。

3 教科の学習内容

時期	「単元名」・『教材名』	学習のねらい	おもな学習内容
一 学 期	オリエンテーション 「自己紹介文を書こう」 「図書館の使い方」 「音読の仕方」	・国語の学習の仕方について理解する。 ・目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を決め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする。	・中学校国語科の目標、学習の進め方 ・学校図書館の使い方 ・音読の仕方
	「ふしぎ」「四季の詩」	表現の技法を理解し、使う。	・朗読の工夫 ・詩の表現技法
	「河童と蛙」	場面の展開や登場人物の描写、表現の特徴を生かして朗読する。	場面を考えながら工夫して朗読すること
	「自分の脳を知っていますか」	文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述をもとに捉え、要旨を把握する。	大まかに内容をつかんだり、人に紹介したりするなど、目的や必要に応じて要約したり要旨を捉えたりすること
	「言葉の単位」	言葉にも単位があることを知る。	単語の文法的な役割や品詞と文の成分の関係
	漢字の広場1「漢字の部首」	漢字の部首について知る。	漢字の使い方
	「硬筆」	字形を整え、文字の大きさ、配列などについて理解し、楷書で書く。	紙面全体に対して文字の大きさや書くべき位置を考えて調和的に割り当てること
	「内容を整理して説明する」 言葉の小窓1「日本語の音声」	音声の働きや仕組みについて理解を深める。	・日本語の「子音」と「母音」の違い ・アクセントやイントネーション
	「ベンチ」	目的に応じて必要な情報に着目して要約したり、場面と描写を結び付けたりして、内容を解釈する。	本の紹介に必要な情報を読み取り、文章中の語彙に関心をもつ。
	「全ては編集されている」 「写真で『事実』を表現する」	比較や分類、関係付けなどの情報の整理の仕方、引用の仕方や出典の示し方について理解を深める。	目的に応じて必要な情報に着目して、内容を解釈する。
	漢字の広場2 「画数と活字の字体」	国語辞典、漢和辞典の活用	正しい文字や表記、的確な語句を選ぶこと
	「意見文を書こう」	自分の考えを的確に伝えるように工夫して書く。	身近なことを中心にした事柄に対する自分の考えを持ち意見として表現すること
	「1学期の国語の学習を振り返ろう」	各単元の自己評価をもとに、成果と課題を文章にする。	事実と気持ちをわかりやすく分けて書くこと

時期	「単元名」・『教材名』	学習のねらい	おもな学習内容
二 学 期	「弁論大会」	聞き手を意識した話し方をする。	自分の思いや考えを伝え合うこと
	「森には魔法つかいがいる」	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分ける。	問題に対する、筆者の解決法を整理すること
	「文の成分」	単語の識別について理解する。	単語のもつ文法的な役割や品詞と文の成分の関係
	昔話と古典 「-箱に入った桃太郎-」	古典には様々な種類の作品があることを知る。	様々な種類の古典作品
	物語の始まり「-竹取物語-」	音読に必要な文語のきまりを知り、古文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しむ。	歴史的仮名遣いと独特のリズム
	故事成語-中国の名言-	訓読の仕方を知り、音読して漢文特有のリズムを味わう。	漢文を繰り返し音読して、その独特のリズムに気付くこと
	「蜘蛛の糸」	読書が、知識や情報を得たり、自分の考えを広げたりすることに役立つことを理解する。	自分の考えを広げること
	「オツベルと象」	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える。	・思考の流れや登場人物の心情の変化に沿って展開を把握すること ・表現技法の意味や用法
	「書きぞめ」	行書の基礎的な書き方を理解して、行書で書く。	字形を整え、文字の大きさ、配列、配置を意識して書くこと
	「百人一首」	百人一首を通して和歌に親しみをもつ。	暗唱を軸に散らし取り
三 学 期	2学期の国語学習を振り返ろう	各単元の自己評価をもとに、成果と課題を文章にする。	事実と気持ちをわかりやすく分けて書くこと
	「百人一首」	百人一首大会に向けて学習する。	暗唱を軸に散らし取り
	「言葉がつなぐ世界遺産」	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見との関係などについて叙述を基に捉え、要旨を把握する。	問いと答え、事実と意見の関係の理解
	漢字の広場3「漢字の音と訓」	「漢字の音と訓」について知る。	漢字の音と訓についての理解
	「単語のいろいろ」	単語の分類の基準について理解する。	単語のもつ文法的な役割や品詞と文の成分の関係
	「少年の日の思い出」	作品を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにする。	疑問をもつこと、批判することなどを通して、新たなものの見方や考え方を発見したり、様々な視点から物事について考えられるようになったりなど、読み手としてのものの見方や考え方を広げること
三 学 期	学習のまとめ	根拠を明確にしなが、自分の考えが伝わる文章になるように工夫する。	・自己評価の方法 ・読み手に対して、どの部分が根拠であるかが明確になるように工夫すること

4 評価について

(1) 知識・技能

中学校生活に必要な国語の知識や技能を身に付けているとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりしている。

- ① 漢字を正しく読んだり書いたりすることができるか。
- ② 語句や言葉のきまりを正しく理解しているか。
- ③ 字形を整えて効果的に書くことができるか。

(2) 思考・判断・表現

「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを確かなものにしている。

- ① 相手の話を注意深く聞き、内容を理解することができるか。
- ② 広く話題を求め、速度や声の大きさに注意して効果的に伝えることができるか。
- ③ 目的に応じ、条件を守って適切な文章を書くことができるか。
- ④ 自分の考えや意見を、根拠を明確にして適切に書くことができるか。
- ⑤ 文章の内容を正しくとらえ、主題を考えたり要旨をとらえたりすることができるか。
- ⑥ 語句の意味を正確にとらえ、論理の展開を正確につかむことができるか。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを確かなものにしたりしながら、言葉がもつ価値に気付こうとしているとともに、進んで読書をし、言葉を適切に使用している。

- ① 自ら課題に積極的に取り組んでいるか。
- ② ノートやプリント、自己評価シートなど学習の記録が整理されているか。
- ③ 忘れ物をせず、提出物を期日までに提出しているか。